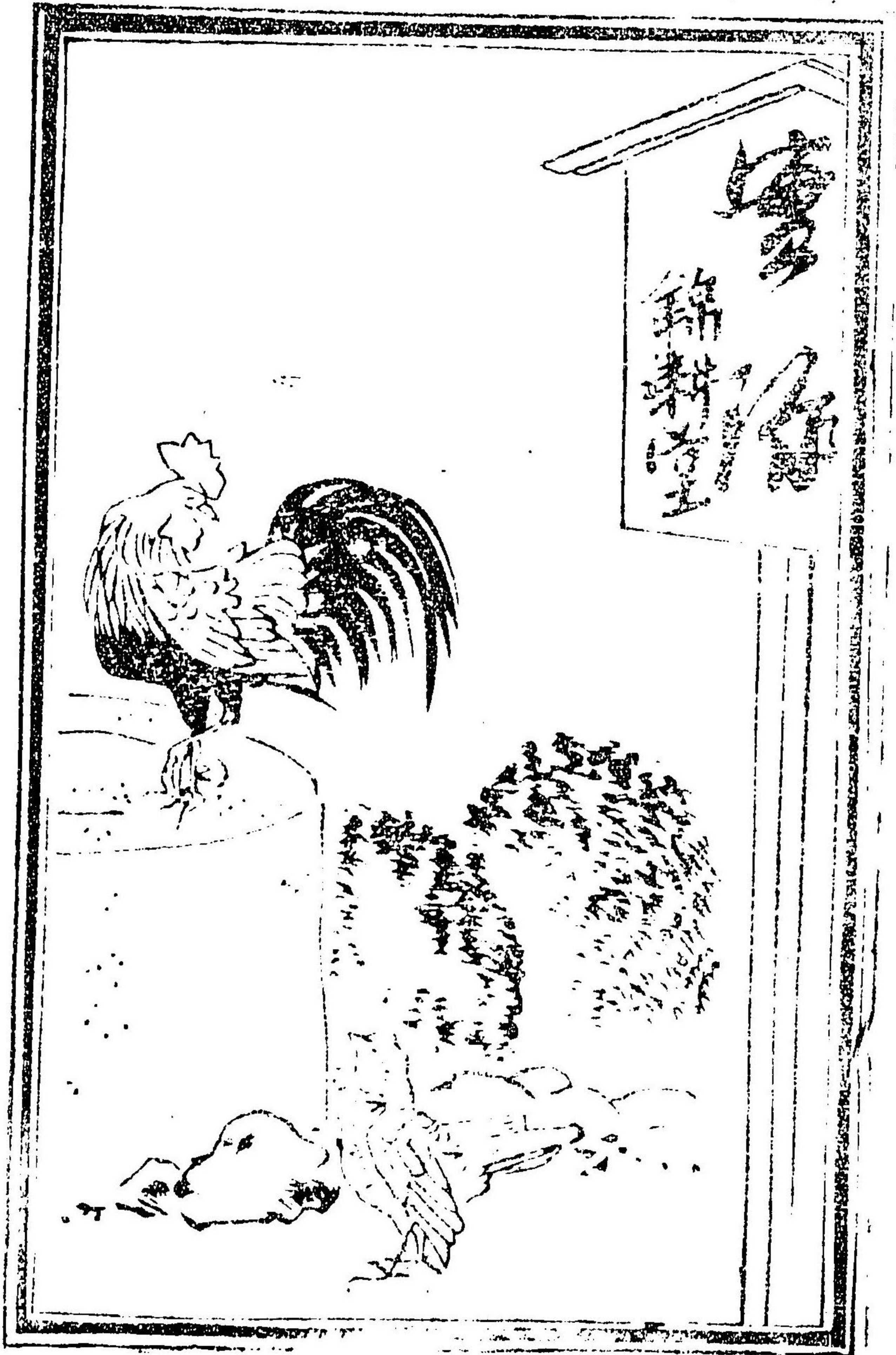


特42

834



川中嶋烈戰記 全





目衆驚戰激義重





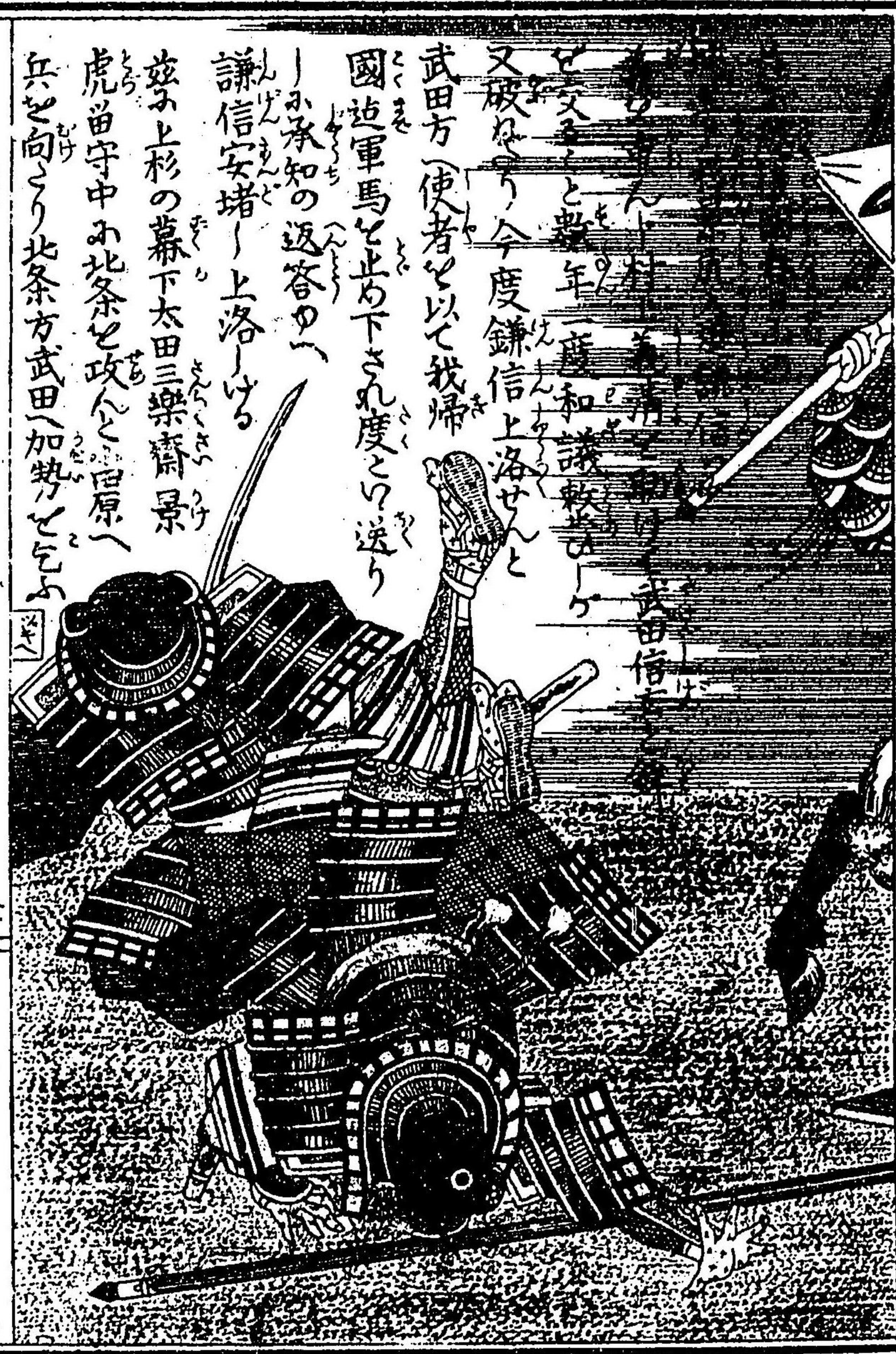
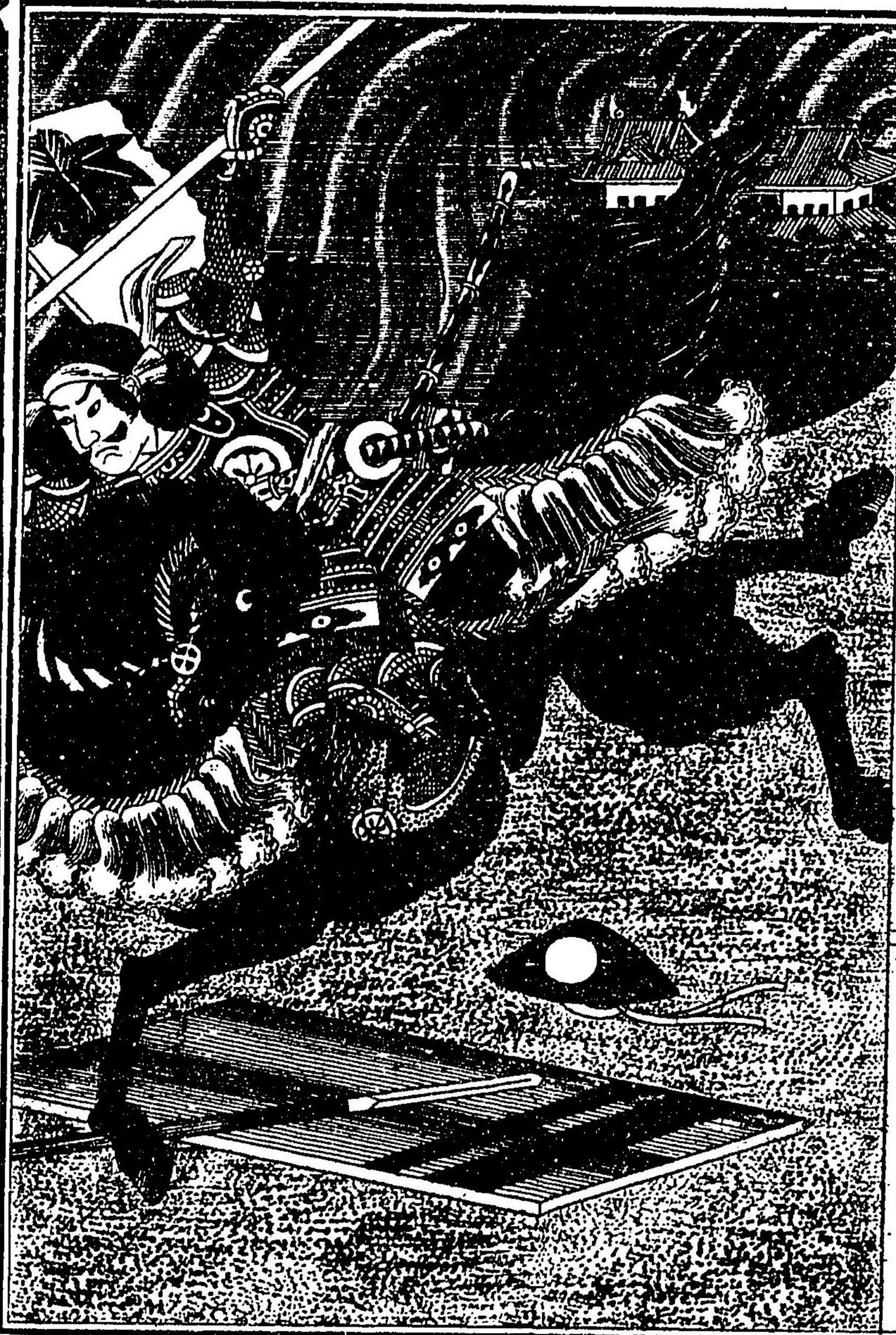
名英真勇有智



宋勘助

川口

五二



武田方使者を以て我帰
 國邊軍馬を止り下され度との送り
 謙信安堵の上洛のける
 茲の上杉の幕下太田三樂齋景
 虎留守中み北条を政んと四原へ
 兵を向より北条方武田加勢を乞ふ



信玄北条へ兵を出さば上校
 の持城信越の境ある野ヶ
 嶽の城を攻めたり此
 由京都へ注進せしめ
 鎌信將軍家へ衣服を
 願ひ義輝公の輝の二字
 を賜り輝虎と号せしめ
 急き帰國して武田家使
 者をつらし其罪せむふら
 つく不法の返答ふ鎌信大い
 ふ怒り軍勢を集め抽軍
 五万余人内三万余人を
 のに二万八千余人を



卒し永禄四年八月四日
 発し妻女山に下り
 と居たり茲に
 城を眼下
 ちるに要地

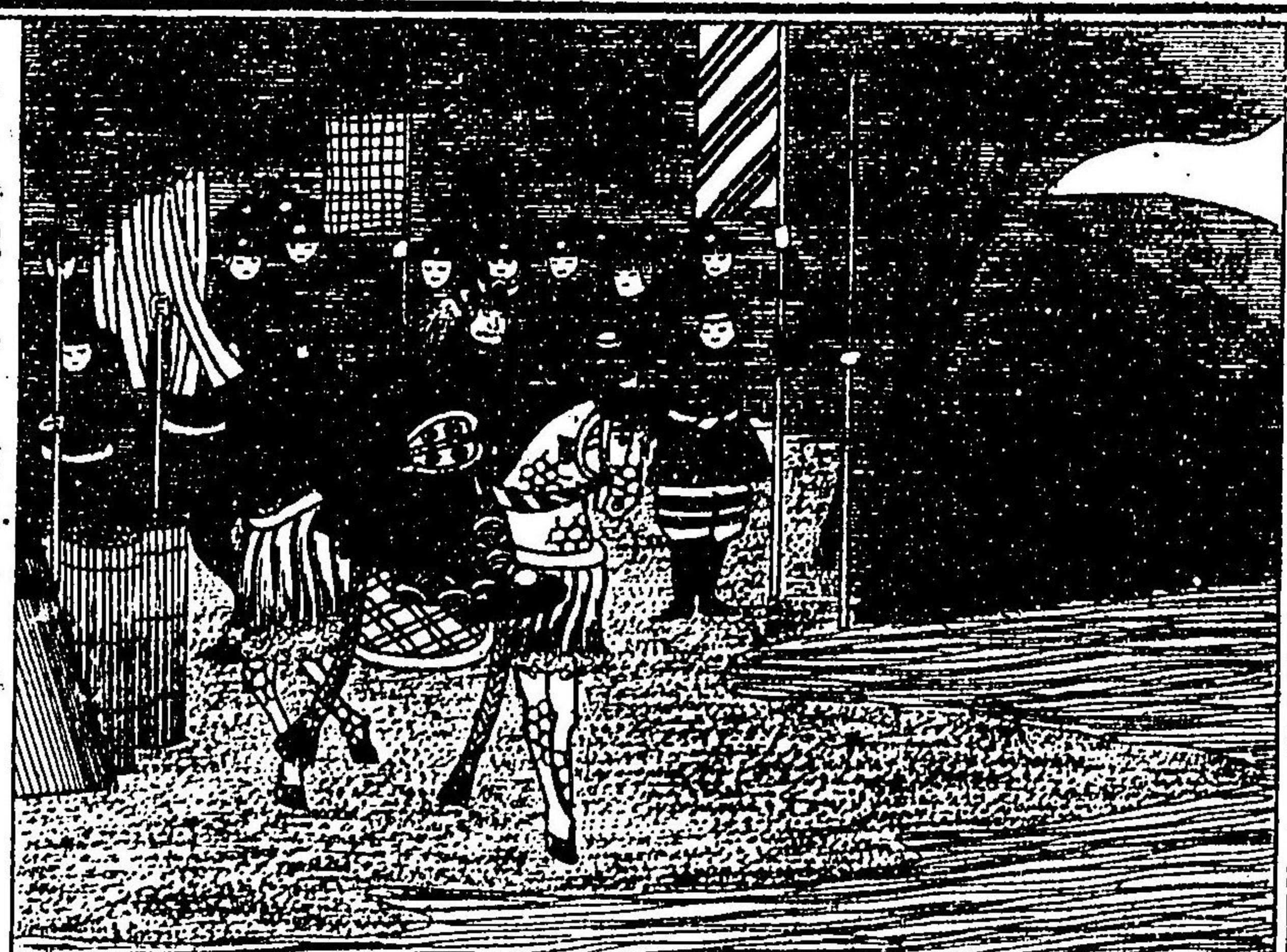


信

武田
 甲府に注進
 及ぶ信玄容易
 らるに俄に軍勢
 を集め兵を配り
 茶臼山に本陣を
 越後より兵糧の路を
 絶て信玄の軍勢を
 入らせり

山本進に出仰至
 極せり万人を夜討み
 向け六千人の川中島





川中島



兵を大夫とて
 智謀をたれ
 若夜討とて
 川中島へ
 出でて
 味方
 真田の
 敵を
 何れ
 勝れ

上杉



上杉謙信



鎌信

ありとあり
こまごま
付まじり
けい
決定
ありし



鎌信ハ油断なく夜み
忍び陣中を見廻り敵城
見下そみ煙の立登る故直入本陣
衆の諸将を密に召武里方
困者とのらば生捕じと命を困
茶人を生捕然りと諸士を集今夜
夜討せらるる相違は敵を出ぬ川中
操出し不意を討しと五十余ヶ所掃火を
とらそ紙旗を立てた妻女山と引拂ひ川中
此出張ゆ武田方人馬の音ふたつ



杉勢車りの備

おて攻まる山本勲助我軍は
 し小真田へ對し面目じと屈竟の勇
 四五人と従へ切て入り血戦と越後勢之を
 みこいあらる鎌信の馬をのり出山本を
 落し信玄の旗本斬込一同ト出立の法師
 者居並び信玄のけり分りごとく鎌信をのり
 ひ不見頭切り附る所へ長坂源五郎を
 信玄馬のりののるを追ひける追れ
 所と打合て手疵を負危れとて
 大隅守走來り鎌信小向ふ信
 玄危きとのる鎌信原を

一
コ
上
リ

十二

川中島投込

引揚る鎌

信惣軍を引上ん

とせよ妻女山へ夜

討つ向ひ武田勢引

上乗りあら手を攻る

る鎌信之を切りぬけて

凱陣は此戦が五度

目ゆく両将手合して已

小信玄二ヶ所の手取を負

うらむどの激戦なり古

未曾有の大合戦と

いふ



明治廿四年 四月 八日 印刷

日本橋區馬喰町三丁目九番地

著作 兼 発行者 荒川藤兵卫

印刷

